



研究概要



学習指導案  
事後研究会

授業実践①

授業実践②

授業実践③

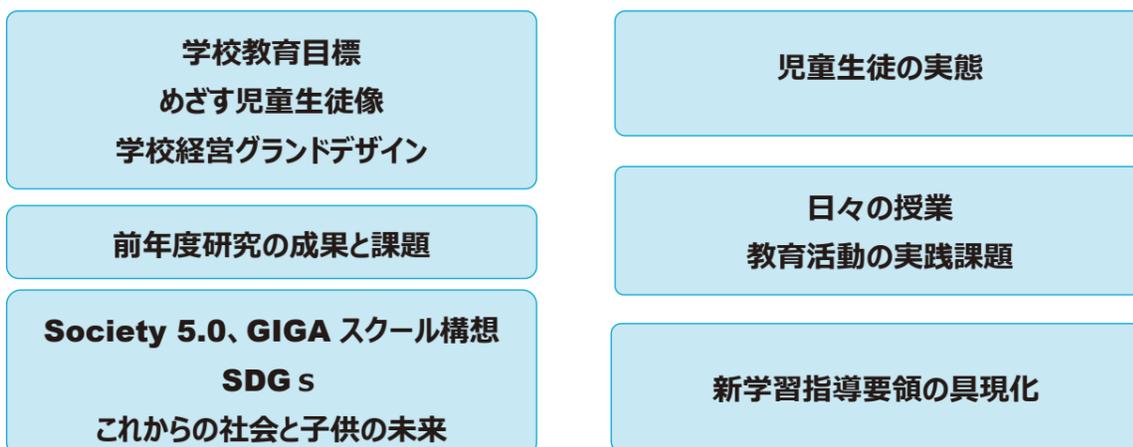
一人一人が  
自己の学びを実感し  
生活していく姿を求めて

— 学習評価に基づいた  
主体的・対話的で深い学びの実現 —

## 1. 研究主題

一人一人が自己の学びを実感し生活していく姿を求めて  
—学習評価に基づいた主体的・対話的で深い学びの実現—

## 2. 主題設定の背景



本校では、子供一人一人の姿をつぶさに観察し「その子らしい学びへの向かい方」「内面の育ち」に迫る実践を行ってきた。子供は学びの主体者であり、未来を創っていく存在であることから、子供自身が自己の学びを実感し、次の学びに生活に生かしていくことが大切であると考えた。これからの社会の中で子供たちが生き抜くために必要な資質・能力を、教育課程全体を通じて育成するために、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえ子供の内面に着目した授業づくりと授業改善、一人一人の資質・能力、授業実践と学習評価の手続きを明確化し、日々の授業実践を行っていく。

## 3. 本校としての主題の捉え

### 「自己の学びを実感し」とは

子供が自ら興味・関心等の実感をもって学習活動に取り組み、達成感や満足感等の実感を持つ中で、学びが深まっていくこと

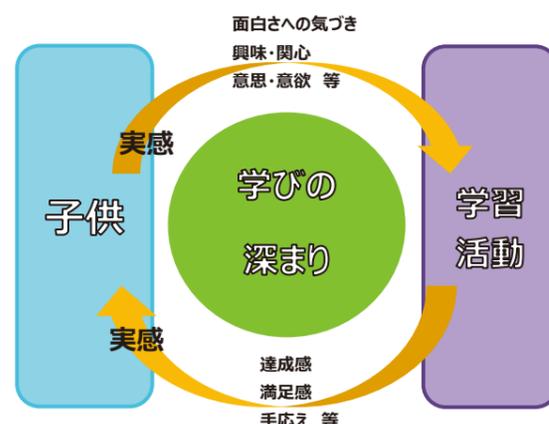
### 「生活していく姿」とは

子供が次の学びに向かっていく姿、学んだことを生かそうとしている姿

### 「学習評価」の捉え

- ・ 教師にとっては、子供たちの学習の成果を的確に捉え、一人一人の子供の学習の成立及び指導の改善を図るため
- ・ 子供にとっては、自己の学びを振り返って次の学びに向かうため

子供が、自ら興味や意欲などをもち、手応えを感じながら、教科等の学びを深めていくためには内面を見取りが不可欠であり、その過程を支えるのが「学習評価」であると考える。



## 4. 研究内容及び研究方法

(1) 知的障がい教育における主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた授業づくりの在り方を探る。

### 資質・能力三つの柱に沿った目標設定

一人一人の実態を基に、育成を目指す資質・能力の三つの柱に沿った目標設定を行う。

### 関連教科等の明確化 教科等横断的な視点

目標設定では、教科の目標を意識し、各教科等を合わせた指導においては関連教科等を明確にし教科横断的な視点を持つ。

### 子供の内面を見取り

主体的・対話的で深い学びを進めるために、子供の内面を見取りをより一層行いながら授業づくりをする。子供の内面を多面的に見取り、学部間のつながりを踏まえた資質・能力の検討につながるように、縦割りグループにおける授業づくりを実施する。

### ICTの活用

主体的・対話的で深い学びのための手段の一つとして、子供の実態に合わせてICT機器の活用を行う（GIGAスクール構想との関連）。

(2) 授業実践と学習評価の手続きを明確にする。

### 組織的・体系的な学習評価の在り方の整理

目標達成に向けた指導・支援の手立て、評価方法の具現化を図り、研究サイクル確立に向けた組織的・体系的な学習評価の在り方を整理する。

### 学習評価を教育課程の改善へ反映させる取組

研究のPDCAサイクルにおけるC（チェック：評価）からA（アクション：改善）の過程において、評価を踏まえて単元計画や年間単元題材一覧等の見直しを行い、授業改善及び教育課程の編成へ反映させていく（カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえた取組：通称「CAミーティング」）。

## 5. 研究の重点（1年次）

資質・能力、主体的・対話的で深い学び、学習評価を踏まえた「学習指導案」（p3）

子供の内面、学びに迫る学習評価を踏まえた「事後研究会」（p4）

【A面】単元についての細案

<p><b>1 単元名</b>「                   」</p> <p><b>2 単元について</b>                  (1) 児童生徒について                  (2) 単元内容</p> <p><b>3 目標</b>                  (全体目標)                  (1) 【知識及び技能】                  (2) 【思考力、判断力、表現力等】                  (3) 【学びに向かう力、人間性等】</p> <p><b>4 単元における主体的・対話的で深い学びの視点</b>                  【主体的な学び】                  【対話的な学び】                  【深い学び】</p>	<p><b>5 単元計画</b></p> <table border="1"> <tr> <td style="width: 20px;"></td> <td style="width: 20px;"></td> <td rowspan="5" style="background-color: #f8d7da; padding: 5px;">                     ・「主体的・対話的で深い学び」の視点                      ・単元を通して、(1) (2) (3) の資質・能力を育成する視点                      ・単元（題材）の内容や時間のまとまり                      ・習得・活用・探究の学習過程等を踏まえて計画する。（学習評価にも関連）                 </td> </tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> </table> <p><b>6 場の設定</b></p> <div style="border: 2px solid #d9534f; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;"> <p>学習指導案の具体例は本校ホームページにてご覧になれます。（右記 QR コードでアクセス可）</p>  </div>			・「主体的・対話的で深い学び」の視点 ・単元を通して、(1) (2) (3) の資質・能力を育成する視点 ・単元（題材）の内容や時間のまとまり ・習得・活用・探究の学習過程等を踏まえて計画する。（学習評価にも関連）								
		・「主体的・対話的で深い学び」の視点 ・単元を通して、(1) (2) (3) の資質・能力を育成する視点 ・単元（題材）の内容や時間のまとまり ・習得・活用・探究の学習過程等を踏まえて計画する。（学習評価にも関連）										

【B面】本時指導案と対象児童生徒補助資料

<p>＜本時指導案＞ 単元名「                   」 学部 組</p> <p><b>1 対象児童生徒の単元目標</b>                  (1) 【知識及び技能】                  (2) 【思考力、判断力、表現力等】                  (3) 【学びに向かう力、人間性等】</p> <p><b>2 本時の学習活動</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>学習活動</th> <th>全体にかかわる指導・支援 (○)、留意点 (・)、評価 (☆)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table> <p>☆「学習活動○」の場面で、□□していたか。                  【知識・技能】</p> <p>特に本時に関連する資質・能力について学習活動に関連させて評価場面と評価方法を記載する。</p>	時間	学習活動	全体にかかわる指導・支援 (○)、留意点 (・)、評価 (☆)	1		○	2		・	<p>対象児童生徒 補助資料</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象児/生徒</th> <th>これまでの実態</th> <th>個別目標</th> <th>指導・支援</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">○男△さん</td> <td>①知識及び技能にかかわる点</td> <td>①知識及び技能にかかわる目標</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②思考力、判断力、表現力にかかわる点</td> <td>②思考力、判断力、表現力にかかわる目標</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③学びに向かう力、人間性等にかかわる点</td> <td>③学びに向かう力、人間性等にかかわる目標</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>単元目標 (1) ~ (3) のうち特に本時に関連する資質・能力を本時の「学習活動」及び「評価 (☆)」と関連させて検討する。</p>	対象児/生徒	これまでの実態	個別目標	指導・支援	○男△さん	①知識及び技能にかかわる点	①知識及び技能にかかわる目標		②思考力、判断力、表現力にかかわる点	②思考力、判断力、表現力にかかわる目標		③学びに向かう力、人間性等にかかわる点	③学びに向かう力、人間性等にかかわる目標	
時間	学習活動	全体にかかわる指導・支援 (○)、留意点 (・)、評価 (☆)																						
1		○																						
2		・																						
対象児/生徒	これまでの実態	個別目標	指導・支援																					
○男△さん	①知識及び技能にかかわる点	①知識及び技能にかかわる目標																						
	②思考力、判断力、表現力にかかわる点	②思考力、判断力、表現力にかかわる目標																						
	③学びに向かう力、人間性等にかかわる点	③学びに向かう力、人間性等にかかわる目標																						

1. 持ち方

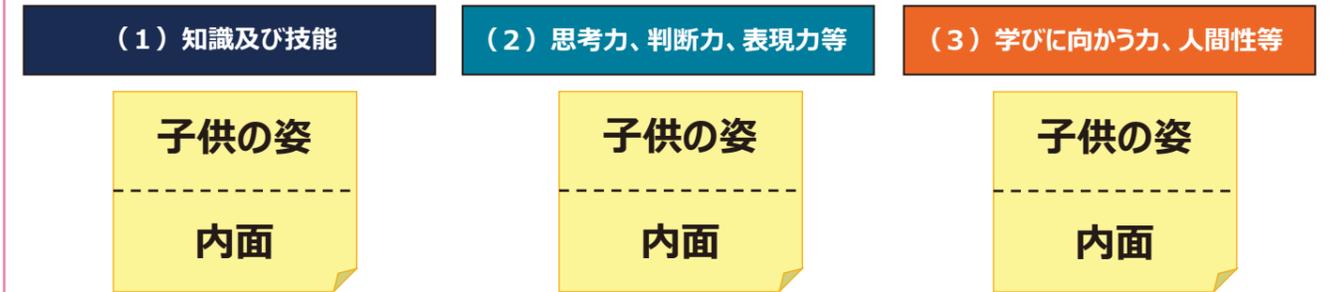
—授業参観 (VTR 視聴) / 付箋記入と貼付—

- ①事後研究会開始前まで (板書準備)
- ②自評 (3分)
- ③協議 (45分)
- ④各グループ協議の報告 (各グループ2分以内)
- ⑤授業者の振り返り (3分)
- ⑥助言 (15分)



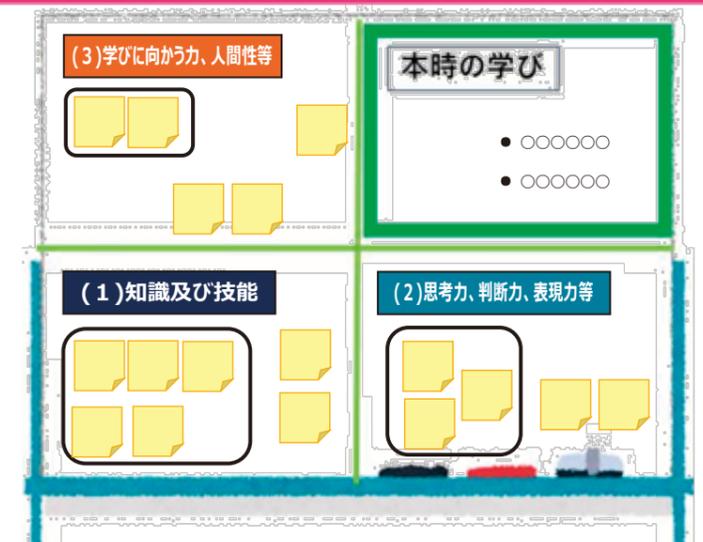
2. 付箋紙の記入方法

- ・授業は、対象児童生徒を中心に参観する。
- ・個別目標 (1) ~ (3) に関連する姿を中心に付箋に記入する。(具体例は p 5 ~ 10へ)



3. 協議の仕方

- ・ファシリテーターが進行する。協議では、資質・能力の三つの柱に照らして、子供の姿や内面を語り合う。また、次時の授業改善につながる「主体的・対話的で深い学び」の視点についても挙げる。
- ・指導案に記載の学習評価の視点も踏まえ、「これは確実に学んだ」と言える「本時の学び」についてまとめていく。



# 授業実践① 小学部 生活単元学習「へんしん！げきをしよう」

## 単元目標

知識及び技能	劇や発表に向けた活動やその中で友達の活動の様子に関心を持ち、自分の役割や活動内容が分かる。
思考力、判断力、表現力等	友達や教師と一緒に活動する中で、気付いたことや考えたことを教師に伝えたり、友達や教師をまねたり、イメージしたことを制作や劇遊びの中で表現したりしながら活動する。
学びに向かう力、人間性等	友達や教師と一緒に楽しむことや自分たちで準備をして行う満足感、自分の役割を果たす達成感、考えたことを実現していく面白さを感じ、自分から自信を持って制作や劇遊びをしようとする。

## 単元の概要

### 主な学習活動

- ・劇をするために必要な物をみんなで考え準備したり、練習したりする。
- ・発表会に向け準備をする。



「へんしん！あそぼう」3びきのこぶたをテーマにした遊び場で遊ぶ活動。



「きのいえをつくろう」段ボールやボード、ハケを使い、友達と協力して木の家を作る活動。



「はっぴょうかいをしよう」挨拶や劇など役割を決め、他学年の友達にこれまでの学習を発表する活動。

### 単元を通して育成する資質・能力

- ・劇や発表をするために必要な物を考えたり、友達と協力して準備したりする活動を通して、毎時の活動内容や友達とのかかわり、接し方を知り、自分から様々な活動、身近な人に働き掛けていこうとする。

## 単元における主体的・対話的で深い学びの視点

主体的な学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本を題材にした場での遊びから、ストーリーや役を設定した劇遊びに発展していくことで、劇遊びに興味関心を持ち、活動しようとする。</li> <li>・制作や劇遊びを繰り返すことで、学習内容に見通しを持ち、自分から活動しようとする。</li> <li>・劇遊びの様子を動画撮影し見ることで、自分の姿や友達の姿を見て良かったことを振り返り、次時への意欲を高めたり、自信を持って活動したりしようとする。</li> </ul>
対話的な学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の中でお互いの様子を見ることが出来る活動内容や場を設定したり、教師が児童の様子を周りの友達に伝えたりすることで、新たな表現や工夫の仕方を知り、友達や教師をまねたり、自分でも行おうとしたりする。</li> <li>・教師とやり取りをしながら活動を振り返ることで、自分や友達の頑張りが分かり、「次はこうしてみたい」、「自分もやってみよう」など新たな目標を持って活動しようとする。</li> </ul>
深い学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制作や劇を数時間ずつ繰り返すことで、毎時の振り返りを次時に生かしながら作り方や台詞、動きなど考えたことを表したり工夫しようとする。</li> <li>・自分たちで楽しむ劇から、観る人を意識した発表へと学習を展開することで、「どうしたら相手に伝わるか」、「観てもらうために何が必要か。」など相手や役割などを意識した視点を持ちながら、より良い劇や発表になるように活動しようとする。</li> </ul>

## 単元計画

1～3	「へんしん！あそぼう」 ・こぶたに変身して物に隠れたり、追い掛けたりして遊ぶ。	12、13	「じぶんたちのげきをどうがでとってふりかえろう」 ・動画を見ながら良かったことや次時頑張ることを伝え合う。
4	「3びきのこぶたのお話をみてげきをしよう」 「げきでつかうものをかんがえよう」	14、15	「はっぴょうかいについてかんがえよう」 ・誰に向けて発表するのか、発表会に必要なものは何かを考える。
5、6	「わらのいえをつくろう」 ・藁の家を作って、感じたことや頑張ったことを振り返る。	16～19	「はっぴょうかいにむけてポスターをつくろう」 ・発表会に向けて練習したり、ポスターを作ったりする。
7～9	「きのいえをつくろう」 ・木の家を作って、感じたことや頑張ったことを振り返る。	20、21	「はっぴょうかいのじゅんぴをしよう」 「はっぴょうかいをしよう」
10、11 (本時)	「レンガのいえをつくろう」 ・レンガの家を作って、感じたことや頑張ったことを振り返る。	22	「はっぴょうかいをふりかえろう」

## 本時の学習活動と学び

### 目標 (対象児童)

- (1) レンガの家のイメージを持ち、段ボールを積んで家を作ることが分かる。
- (2) 持ち方、積み方を工夫したり、友達や教師をまねたり、働き掛けたりしながら家を作る。
- (3) 家作りの面白さや、できた嬉しさを感じ、自分から家作りを行おうとする。

学習活動	学びの姿 (児童の様子 / 付箋紙)
1 はじめのあいさつ	
2 つくろう (1) めあてを確認する。 ① 前時までの振り返りを基に、今日の活動を確認する。 ② レンガ(箱)を運んだり、ガムテープで貼ったりしてレンガの家を作る。	 <p>友達の様子を見て段ボールを運んで積んだ。【知識・技能】 今日は段ボールを積むのかな。昨日と同じだ、よし、私もやろう。</p>
3 ふりかえり 今日できたことや、自分が頑張ったことを振り返り、気付いたことや感じたことを伝え合う。	 <p>隣の箱と同じようにガムテープを縦に貼る。【思考・判断・表現】 あれ？私の貼り方と違うな。この貼り方もやってみようかな。</p>
4 「おどろろ」 「3びきのこぶた」のダンスをする。	
5 おわりのあいさつ	

### 実践を振り返って

対象児は前時までの経験や周りの友達の様子から、本時の学習は「劇の中で使う物を作る活動」であることを理解し自分から活動に向かう姿が見られた。段ボールにガムテープを貼る活動では、友達の貼り方を見て同じように貼る様子が見られ、友達は違う方法で作っていることや新しい貼り方があることに気付いたのではないかと考えられる。一つの物をみんなで作る活動を通して、自然に友達へと目を向けるようになった。また、友達とガムテープを受け渡す場面も見られた。次時は、学習の中で共同作業やペアでの活動を意図的に取り入れながら、身近な友達の様子に関心を向け、かかわりながら新たな気付きや学びを増やしていきたいと感じた。

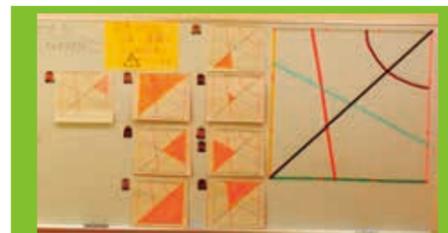
## 単元目標

知識及び技能	辺、直角などの図形を構成する要素や、簡単な図形の約束が分かったり、定規を使って簡単な図形を作図したりする。
思考力、判断力、表現力等	図形を構成する要素に着目しながら簡単な図形の特徴を捉えて弁別し、その根拠を説明する。
学びに向かう力、人間性等	根拠を持って事象を捉え、筋道立てて物事を考える良さを感じながら、進んで学習や生活に生かそうとする。

## 単元の概要

### 主な学習活動

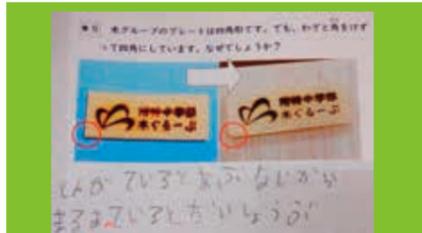
- ・三角形、四角形、直角三角形を中心とした図形を扱う。



「三角形はいくつ」色分けした直線が書かれた正方形の中に一本の直線を引き、そこから三角形を探す活動



「本物の三角形や四角形をさがそう」1 教時目に校内で見つけた形を、学習した根拠を基に再度弁別する活動



「四角の良さ、四角形の良さ」身の周りのものには、あえて角がとってあるものも多くある理由を考える活動

### 単元を通して育成する資質・能力

- ・辺の数、大きさ、向き、色、材質など図形に含まれる様々な要素から、「図形を構成する要素」に着目して辺の数などの要素を抜き出すことを学ぶ。
- ・「三本の直線で囲まれた形を『三角形』と言う」などの「図形の約束」について、身の回りにある具体物を図形を構成する要素に着目して「三角形」、「四角形」と弁別するなど、実際の生活で使える力を育む。
- ・生活の中でも、なぜそうするのか理由を添えて説明しようとするなど、筋道立てて物事を考えようとする力を育む。

### 単元における主体的・対話的で深い学びの視点

主体的な学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元全体において、生徒の自然な思考の流れを考慮した単元構成にすることで活動に見通しを持ち、本時に新たに生まれた疑問に対して、前時までに身に付けたことを活用しながら学習を進めることができるようにする。</li> <li>・一教時目では、「本物の三角形、四角形をさがそう」というこれまでの自分たちの形の捉え方になかった疑問を投げ掛けながら単元計画を提示することで、これからの学習に意欲を持って取り組めるようにする。</li> <li>・毎時間の最後に、今日できるようになったことや学んだことを生かしたまとめができるワークシートを活用することで、自分自身の本時の学びや伸びをより実感し、次時にも意欲が持てるようにする。</li> </ul>
対話的な学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠を基に考えや意見を発表し合う場を設定することで、自分では気が付かなかった図形の弁別の仕方に気付いたり、漠然としていた自分の意見を筋道立てて考えたりできるようにする。</li> <li>・単元を通して、課題にじっくりと取り組む時間を確保したり、類似した学習で発展した内容に繰り返し取り組んだりすることで、既習の知識を活用し、自分の考えを広げ深められるようにする。</li> </ul>
深い学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「図形を構成する要素」に着目した「図形の約束」という根拠を基に、学んだことを活用しながら学習を進めることで、物事を筋道立てて考えることの良さに気付き、今後の学習や生活の中での新たな課題にもその力を発揮して論理的に解決しようとする。</li> </ul>

## 単元計画

1	「いろいろなかたちをさがそう」 ・校舎内で三角形や四角形を見付ける。	6	「三角形はいくつ？ 1」
2	「三角形と四角形をさがそう 1」 ・見つけた図形を弁別し、理由を話し合う。	7 (本時)	「三角形はいくつ？ 2」
3	「三角形と四角形をさがそう 2」 ・教師の行った弁別の根拠を考え、話し合う。	8	「四角形はいくつ？」 ・色分けした直線が書かれた正方形の中に一本の直線を引き、そこから四角形を探す。
4	「三角形、四角形ってどんなかたち？ 1」 ・竹ひごを組み合わせて三角形を作る。	9	「直角三角形ってどんなかたち？」 ・折り紙を折って、「直角」について知り、直角三角形を弁別する。
5	「三角形、四角形ってどんなかたち？ 2」 ・厚紙で作られた三角形から頂点や辺を探す。	10	「本物の三角形や四角形をさがそう」 「四角の良さ、四角形の良さ」

## 本時の学習活動と学び

### 目標 (対象生徒)

- (1) 三角形は3本の直線で囲まれている形であることが分かり、直線を引いてできた図形の中から三角形を正確に見付ける。
- (2) 見つけた三角形が、なぜ三角形と言えるのかを三角形の約束を根拠にして説明する。
- (3) 三色の直線で囲まれているという根拠を基に、意欲的に三角形を見付けたり、説明したりし、筋道立てて物事を考える良さを感じながら活動しようとする。

学習活動	学びの姿 (生徒の様子 / 付箋紙)
1 はじめのあいさつ	
2 「三角形はいくつ？ 2」 (1) めあてを確認する。 [三角形は いくつあるか かんがえよう 2] (2) 三角形を見付け、その根拠を考える。 ① 枠となる正方形の中いくつかの直線が引かれた図柄に1本の直線を加え、新しくできた三角形を見付ける。 ② 三角形を見付けたら、それがなぜ三角形と言えるのか根拠を考える。 (3) 根拠とともに見つけた三角形を発表する。 ① 自分の見つけた三角形について、根拠とともに友達に発表する。 ② それらの活動を繰り返し、全員で全ての三角形を見付ける。	<p>三角形の約束を根拠とし、線をなぞりながら、見つけた三角形を発表した。 【思考・判断・表現】</p> <p>「○と△と□の線で囲まれた」と伝えたと、見つけた三角形の説明になるね。</p>
3 ふりかえり 新しい図柄のワークシートを使い、三角形を見付けてその根拠を言葉でまとめる。	<p>なぜ三角形と言えるのかを友達に発表する場面で、「黒と△色と□色の三本の直線で囲まれているから、三角形です。」と三角形と言える根拠を説明しているか。【思考・判断・表現】</p> <p>ふりかえりのワークシートに記入する場面で、「三本の直線で囲まれているから、三角形です。」と三角形と言える根拠を説明しているか。【思考・判断・表現】</p>
4 「おりにとじこめる」 点を直線で結んで動物などを囲みながら三角形をかき、直線を引く技能の習熟を図る。	
5 おわりのあいさつ	

### 実践を振り返って

対象生徒は、三角形であるかどうかについて、自分なりの言葉ではあるが、根拠を基に説明したことで、相手に伝わりやすく納得させられるという良さを感じている様子だった。次時の「四角形」を見付ける学習では、本時で多少あやふやだった直線の定義を改めて確認して定着を図るようにしたい。その上で、三角形の約束や根拠を基に説明することの良さを実感できるようにしながら、より分かりやすく、自信を持って説明ができるように支援していく。今後、本単元で身に付いた力を生かし、他の教科・領域の学習でも、自分の意見に「わけ」を付けて発表する姿につなげていきたい。

# 授業実践③ 高等部 作業学習「みんなが喜ぶ製品を作って販売しようⅡ」

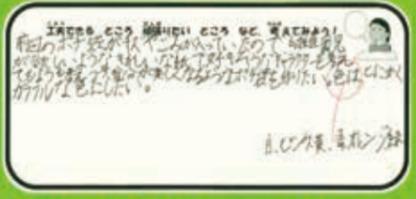
## 単元目標

知識及び技能	様々な作業工程や販売活動に取り組みながら、各活動の大事なポイントに気付き、正確に作業したり、やることが分かって販売したりする。
思考力、判断力、表現力等	作業内容や活動の予定に見通しを持ちながら、製品作りや販売活動において必要な事柄を考えて工夫する。
学びに向かう力、人間性等	より良い製品を目指し、できたことへの達成感を感じながら、進んで製品作りに取り組もうとする。

## 単元の概要

### 主な学習活動

・「幼稚園バザー」に向けて一人一人が役割を担当し、製品作りを行う。



「幼稚園バザーに向けて」前単元で行った校内バザーについて振り返った後に、次のバザーに向けた学習計画や販売する製品の工夫点等を考える学習



「製品作り」ラミネートはがしやパルプ液作り、紙すきなど、各作業工程に取り組み、製品作りを行う学習



「幼稚園とのオンライン交流」園児たちに、Zoom で製品紹介や宣伝をする活動

### 単元を通して育成する資質・能力

・様々な作業に取り組む活動を通して、見通しを持って必要なことを考えたり、自分の考えを相手に伝えたりする力を育成する。  
 ・販売活動を通して、製品が売れる喜びや達成感を感じ、よりよい生活につながるよう自分から他者に働きかけようとする力を育成する。

## 単元における主体的・対話的で深い学びの視点

主体的な学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>前単元で経験した販売活動の様子を動画や写真で振り返ったり、生徒が分かりやすいまとめ方を取り入れたりすることで、活動に興味を持ったり、やるべきことに気付いたりしながら単元全体への見通しを持つようになる。</li> <li>自分で考えたことや行動したことを毎時間振り返り自己評価することで、課題や解決策を考え、自分の目標を意識しながら作業するようになる。</li> </ul>
対話的な学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別で作業に取り組むことで、作業過程の中で製品の善し悪しを振り返ったり、できた製品を見返したりしながらより良い製品作りに向かえるようになる。</li> <li>作業している友達の様子が分かるように動画で見合ったり、お互いの作業製品が見えるようにしたりすることで、友達の良さに気付き、自分の製品と比較しながら、自分の考えを確かなものにしていくようになる。</li> <li>Zoom を活用し、販売の宣伝を行ったり、インタビューをしたりすることで、買い手の気持ちに気付いたり、必要なことを考えたりするようになる。</li> </ul>
深い学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートを通して、買い手の意見を聞くことで、買い手の思いを実感し、そこから自分の気付きや学びにつながったり、みんなが喜ぶ製品を販売できた嬉しさを感じたりするようになる。</li> <li>製品を見比べることで、どれが良かったか、次はどのようにしたら良いかを、自分で、または教師や友達と一緒に考え、より良い製品作りに生かせるようになる。</li> <li>継続して作業に取り組むことで、身に付けたことや自分の得意なことに気付き、次の活動に生かそうとしたり、生活の中でも意識したりするようになる。</li> <li>バザーの売上集計を、数学で学んだ棒グラフで表すことで、どの製品が売れたか比較したり、次の作業学習に生かそうとしたりするようになる。</li> </ul>

## 単元計画

1～5	「幼稚園バザーに向けて」 ・幼稚園の子供たちから、どんな製品が求められているか知り、幼稚園向けに製品を増やしたり、売り方を考えたりする。
6～9	「幼稚園バザーに向けた製品作り」 ・作業工程を分担し、製品作り（紙作りと製品への加工）に取り組む。
10、11（本時）	・幼稚園バザーに向けた準備（販売や会計、包装など）
12～38	「幼稚園とのオンライン交流（事前インタビュー・作業状況の報告・販売宣伝）」 「幼稚園バザー」
39～47	「幼稚園バザーを終えて振り返り」

## 本時の学習活動と学び

### 目標（対象生徒）

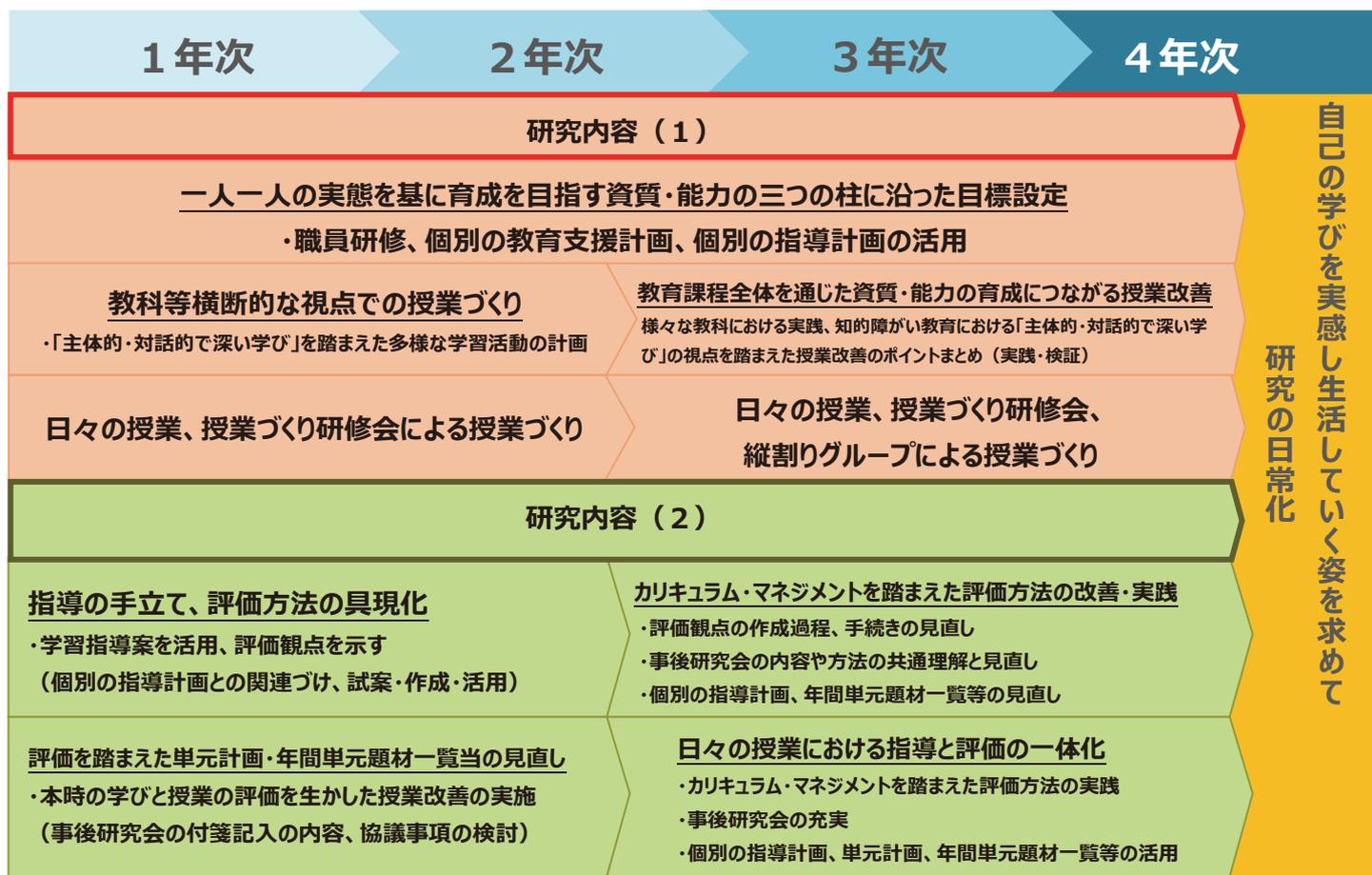
- 紙すき、ポチ袋づくりの大事なポイントを意識しながら、正確に作業をする。
- 作業内容や活動の予定に見通しを持ちながら、その日の作業日程を考えて行動する。
- 幼稚園児に向けた製品作りを通して、上手くできたことへの嬉しさを感じながら、良い製品作りに取り組もうとする。

学習活動	学びの姿（生徒の様子／付箋紙）
1 担当する作業と目標の確認	
2 製品作り 道具を準備して、作業する ・パルプ液作り ・紙すき ・ポチ袋作り ・コースター作り ・型抜き	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  <p>2枚目の紙をすいた時に、紙をぐるっと一回り見て確認した。【知識・技能】</p> <p>ごみのない紙をすきたい。</p> </div> <div style="width: 45%;">  <p>網を一旦持ち上げ、すいた紙の状態を見てローラーし直した。【知識・技能】</p> <p>つるつるのきれいな紙にしたい。</p> </div> </div> <p>担当する作業において大事なポイントを意識して作業したか。【知識・技能】</p>
3 後片付け	
4 振り返り ① 自己評価をし、頑張ったところや、次回気を付けたいところなどを書く。 ② 翌日の作業担当を確認する。	
5 おわりのあいさつ	

### 実践を振り返って

対象生徒は、本時で、紙をすいた直後に「ごみやだま」などを確認する方法や見方が分かり、きれいな紙をすくことが良い製品作りにつながることを学んだ様子だった。また、教師と一緒にその日の活動計画を考えることで、状況や時期に応じて取り組む作業内容を考えながら製品作りを行っていくことが必要であることに気付いたのではないかと考える。

次時からの作業学習では、学んだ方法や見方をその都度生かしながら紙すきをし、より良い製品ができるようにしたいという思いを持って励むようになってきた。今後は、対象生徒がバザーまでの期間やその日の時間に合わせて作業内容を考えらるるよう、事前に作業の進め方や時間の使い方を確認しておいたり、徐々に支援を減らして見守るようになりたい。



## 研究のあゆみ 2020

### 6月 授業づくり研修会Ⅰ（校内）

研究授業 小学部 国語・算数

### 7月 授業づくり研修会Ⅱ（校内）

研究授業 高等部 数学

研究授業 高等部 作業学習

### 11月 授業づくり研修会Ⅲ（中学部の授業を公開）

公開研究授業 中学部 数学【本紙 実践②】

学部研究授業 小学部 生活単元学習【本紙 実践①】

学部研究授業 高等部 作業学習【本紙 実践③】

指導 助言	山形県教育センター特別支援教育課	指導主事	森 豊 先生
共同研究者	山形大学大学院教育実践研究科	教 授	三浦 光哉 氏
	山形大学地域教育文化学部	教 授	大村 一史 氏
		准 教 授	本島 優子 氏
		講 師	池田 彩乃 氏

山形大学附属特別支援学校 〒990-2331 山形市飯田西三丁目2-55

TEL 023-631-0918

